

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立東田辺小 学校

児童数

50

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	18.06	18.94	35.50	46.35	53.76	9.42	148.41	19.56	54.19
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	17.67	17.74	37.26	43.96	45.12	9.61	140.12	11.32	55.48
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

男女の結果共に、全国平均を上回る結果であったが、平均して上回っているのではなく、一部の種目で大きく上回ることで他をカバーしているとも見ることができる。男女ともに、「握力」、「反復横跳び」、「20mシャトルラン」で大きく全国平均を上回っている。一方、本校の課題であった「立ち幅跳び」は今年度も下回っていた。質問紙からは、体を動かすことに興味関心は強いことが分かったことに加え、実際に体を動かすことも好きな児童が多い。曜日ごとの運動量においても、全国平均より多く運動に臨んでいるが、それが体力・運動能力の向上につながっているかという点には、課題が残っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

昨年度の結果を踏まえ、瞬発力と体力の向上に取り組んできた。大きな成果がすぐに表れるわけではないが、中学年からの取り組みの成果が徐々に出てくることを期待している。柔軟や瞬発力のどれかが苦手であるわけではないので、どの種目にも効果があるような取り組みを続けていく必要がある。具体的には、体育科において運動量を増やすこと。2クラス合同の体育の回数を減らしたり、運動会などの大きな行事に体育の時間を使いすぎず、年間通して体力・運動能力の向上に取り組んだりしていく必要がある。加えて、生活習慣の改善も必要である。「朝ご飯を毎日食べるか」と、「睡眠時間」の項目においては、全国平均を大きく下回っている。家庭への啓発も行い、特に低学年・中学年において、睡眠時間の確保と朝ご飯の喫食率を高めたい。